

# 元気ウイルスで国づくりを

熊谷 博子

東京新聞 夕刊コラム『放射線』（現・『紙つぶて』） 2007年6月18日

『まちづくり元気ウイルスが行く♪』というミュージカルをつくったことがある。そのドキュメンタリーもある。

1997年に「安全・安心まちづくり女性フォーラム」という活動を始めた。当時の建設省が金を出したが、口を出さなかった。そして全国23地域の女性住民たちが、自主的な活動をくり広げた。始めから3年限定の活動で、まとめの年に、普通の報告会ではつまらない、“まちづくりミュージカル”をつくろう、となった。

ストーリーは、霞ヶ関の某官庁の一角で、住民に勝手にやらせていいのかと、ウイルス培養係同士が対立している。しかしまちづくり元気ウイルスは誕生し、育ての親や委員会という名のバラまき係がいて、それぞれの地域に取り付き、パワフルにまちづくりが進む。これは実話に近いし、この間ともに活動してきた私の実感でもあった。

各地域には、これまでやってきたことを、寸劇でも漫才でも3分間でプレゼンテーションしてくれとお願いした。全国の女性住民と霞ヶ関の役人たちが、まちづくりをテーマに、同じ舞台で歌い踊るという前代未聞の試みだった。この中で、自分たちの活動を見直し、互いのやり方やパワーを確認することができた。

阪神・淡路大震災の残したのも本当には解決していなかったし、その後参加地域では、東海村の原子力事故も起き、新たな問題もつきつけられた。

今年で10年たち、参加した人々と地域がどんな活動を続け、変わったのかを、再確認しなくてはと、何人かと話している。

あらためて思う。今大切なのは「美しい国づくり」ではなく、「まともな国づくり」元気ウイルスをあちこちにばらまくことだと。